

ぶんきょうくしょうがいしやちいきじりつしえんきょうぎかい
文京区障害者地域自立支援協議会

れいわねんど だい かいしょうがいとうじしやぶかい ようてんきろく
令和5年度 第2回障害当事者部会 要点記録

【日時】令和6年1月19日(金) 10時～12時

【場所】ぶんきょうシビックセンター3階 障害者会館

【出席者】 しむら けんいち (じりつしえんきょうぎかい ふくかいちよう)
志村 健一 (自立支援協議会 副会長)
ちくま せいじ いいん (ちてきしょうがい)
竹間 誠次 委員 (知的障害)
こうの たかし いいん (しんたいしょうがい)
河野 孝志 委員 (身体障害)
やなぎさわ ゆみこ いいん (せいしんしょうがい)
柳澤 由美子 委員 (精神障害)
よしだ ゆきこ いいん (しんたいしょうがい)
吉田 由紀子 委員 (身体障害)
はしもと じゆんいち (くいいん)
橋本 淳一 (区委員)

【欠席者】 たかやま なおき (じりつしえんきょうぎかいかいちよう)
高山 直樹 (自立支援協議会会長)
ながの えいいちろう ぶかいちよう (ちてきしょうがい)
永野 栄一郎 部会長 (知的障害)
なかやま まさみ いいん (せいしんしょうがい)
中山 雅美 委員 (精神障害)

【補助人】 まつした こういち (ちくま いいん ぼじょにん)
松下 功一 (竹間委員補助人)

【事務局】 せき あらきだ かわい はやし (ぶんきょうくしょうがいしやきかんそうだんしえん)
關、荒木田、河井、林 (文京区障害者基幹相談支援センター)

【事務局より】

- ・出欠確認
- ・傍聴及び会議内容公開について確認
- ・記録のため、会議内容録音と写真撮影についての確認
- ・資料確認

1. 開会挨拶

区委員 より

話し合いや意見を頂くことにより、文京区の障害福祉を進めていく上で活かしていきたい。

2. 事務局紹介及び今年度の当事者部会委員体制について

- ・新任の委員紹介
- ・各委員の自己紹介

3. 議題

(1)それぞれの活動報告、意見交換

事務局より資料説明:

(資料第1号)各部会を傍聴した後にインタビュー形式で聞き取りした内容

(資料第2号)それぞれの活動報告

①相談・地域生活支援専門部会

相談・地域生活支援部会は相談支援体制や地域生活を支える仕組みについて検討する部会。

今年度は支援を円滑に引き継いでいく方法及び暮らしをサポートする仕組みについて検討している。

<意見・感想>

- 65歳問題などの一部は当事者視点からの意見でもある議論がなされていた。
- 当事者部会とは雰囲気が違うが、良い議論を行っている時間だった。
- 少し時間が足りないように思えた。
- できれば傍聴している人達の意見も発言できる時間があると良い。
- 点字資料を用意して欲しかった。
- 会場の音声が聴き取りにくかった。
- 資料が沢山あったが、ページ番号がなく、ページ番号で案内して欲しかった。
- 委員の人数が多く、意見をまとめるのも大変だなと思った。
- 情報共有の大切さを感じた。
- サービスが変わるのはいつなのか、65歳を迎える前に当事者自身にもできる準備があるのではないかと考えた。
- 移動支援が65歳になっても利用できることを知り安心した。
- 知っているサービスの話だったので興味深かった。
- 委員の皆さんが活発に意見を出す良い会議だと思った。
- 議題に挙がっていた話し合い委員になれるなら自分自身がやってみたいと思った。
- 雰囲気が異なる、意見交換、向こうは会議、20人近く意見をまとめるのが大変そう。
- 意見をまとめるのが大変そう。話し合い委員という制度を知り、なりたと思った。
- 傍聴者も発言できる場を頂けたらと思った。

<協議会副会長より>

大事な視点が伺えたので、今後考えていきたい。

②就労支援専門部会

一般就労の推進と福祉的就労の充実について検討する部会、第2回は来年11月に開催予定の文京地域支援フォーラムの企画についての話し合い、引きこもりの社会参加を支援している茗荷谷クラブから中間的な就労について事例提供。

<意見・感想>

- 当事者の目線に立った議論がされていた。

- 前半はよくわからなかったが、後半についてはよく判った。
- 歩行器で移動、長テーブルの一番端の席を案内された。
- 文京地域支援フォーラムが毎年開催されているとは知らなかった、催し物は好きなので来年は参加したい。
- ひきこもりの支援の話から短い時間でも働けることを知った。
- 傍聴して良かったのは来年のフォーラムについて知る事ができた、後半は茗荷谷クラブから中間的就労、精神障害のある方へこういう風に接したらよいということが良く判り、良い講演であった。

③ 権利擁護専門部会

障害者の権利擁護の取組みや虐待を予防するための仕組みについて検討する部会。今年度は権利擁護制度の利用促進及び関係機関との連携について検討をしている。

<意見・感想>

- もう少し時間が長いと良い、テーマによるとは思うが、本日のテーマであればもう少し長い方が良い。
- 配慮をお願いしたいことはないのをお願いしていない。
- 一人一人ケースが違うため、オーダーメイド感覚で細やかな支援をすることが大事なのでと感じた。良い案を出されている方がいたため、絵に描いた餅にならないよう実際に行動に移して頂けたらと思う。
- 支援をしてほしい事が年月と共に変わると思うので、こまめに本人に聴き取り調査等を行うことが大事と感じた。
- 実際に参加させて頂いたことは有難く感じた。
- 一人一人によってケースは違うので、皆さんの支援したいという熱意は伝わってきたが、支援をしていただくほうの立場が置き去りにされないかという不安も多少感じた。
- 本人とまめに連絡を取り合って、前はこうだったがじつはこういう風に変ったということ、まめに連絡を取り合うことの大事さを感じた。

<補足>

部会の委員の方にはできるだけ分かりやすく、傍聴の方にもわかりやすいように考えていきたい。権利擁護専門部会の当事者委員からも難しかった、判らなかつたという感想が挙がっていた。権利擁護という形が見えないものをお話するのはわかりにくいと改めて感じた。ちなみに弁護士の委員も難しかったと発言されている。誰にとっても難しいテーマだと感じている。

障害のある方の権利について話しているが、参加している委員が各々思っている障害がバラバラでいつも噛み合わないと感じ、就労している方の権利擁護はどんなことがポイントなのか、リアルな事例を用いて参加者皆で同じものを見ようという取り組みをした。

④ ハートフル工房

障害者施設の商品販売会、障害者雇用や就労への理解を深めるとともに、区内障害者施設の工賃アツ

プ、障害者の就労意欲の喚起向上を図ることを目的として、障害のある当事者の方々が店員となって

販売している。12月はランチタイムイベントとして、電子オルガン演奏があった。

<意見・感想>

- 障害のことを地域に周知されるイベントになっていた。
- 事務局の職員と二人だったので忙しかった。あともう一人いたらと思った。
- 販売会のチラシを配っていたが、知らない人はそのまま通り過ぎてしまう人がいたり、何のチラシを配っているのか判りにくかったので配りづらさを感じた。
- ティッシュなら受け取ってくれたかもしれない。
- チラシだったから内容についてお客さんから話しかけられたような気もする。
- 私服での参加、看板を首から下げたりして、何をしている人かわかりやすくなると配りやすかった。
- 活動への配慮として椅子を用意してもらった。
- 知っている人から声をかけてもらった、チラシの文字が小さくて分かりづらかった。
- 高齢者の方に質問されることもあった。
- 昼の演奏会について細かい情報がわからなくて戸惑った。
- 楽しかった、またやりたいと思った。

<他委員からの感想>

- 委員がチラシ配りをしているところに当日お会いして挨拶をした。とても自然な感じでお客さんに対してチラシを配り、イベントのお知らせをしていたので良いなあと感じた。当事者部会委員の方が参加して新しい取り組みだと感じた。就労支援センターと障害福祉課のほうで今後の参考にさせてもらいたい。
- これまでの当事者部会を振り返ると、全体会や各部会の方から皆さんに意見をくださいと表明し、意見を考へて頂いたことはあったが、あらためて参加していかがでしたかと感想をもらえて良かった。この後にも繋がっていくが、率直な感想を頂けたことを、それぞれの部会や全体会でも受け止めていきたいと強く思った。とても参考になった。

(2) 障害福祉課より「心のバリアフリーハンドブック」改定案について 【資料第3号】

障害福祉課係長より説明。

平成25年以来、4回目の改定、昨年10/27に行なわれた差別解消支援地域協議会の中でも意見を頂き、その意見を還元して修正した資料。

<当事者委員からの意見>

- ① ハンドブックの改定案とは話が異なるが、ヘルプマークの使い方として、必要に応じて情報を片面に貼る付属のシールが付いている。どういう支援が必要か情報(シール)を貼るようになっているが、見えるように貼るのではなく、中に入るようにしたらどうか。

- ② 数年前に意見聴取されて数か所指摘した箇所を修正して頂いた。肩や腕に軽く触れながらという箇所は削除してもらいたくない。私たちは声を掛けられても視覚障害者自身に声を掛けられているのか、私の傍に他の誰かに声を掛けているのか区別がつかない。どうしましたか？何かお手伝いしますか？と声をかけつつ、ほぼ同時に肩や腕に触れて頂くことで自分に声を掛けられたと判断できる。学校の授業でも必ず伝えている・指導していることなので、カットされると困る。他については直接障害福祉課係長へ伝えたい。
- ③ 他委員のご意見を伺い、自分も同じような場面に出くわしたことがあり、横から声を掛けた。どうお手伝いしたらよいか、どう対応したら良かったか聞いたところ、トントンと指先で軽く触って合図してほしいと聞いてなるほどと思った。現場に出くわしていないとわからない、当事者の意見は大事だと感じた。ヘルプマークは知っていたが、ヘルプカードについて知らなかった、通所先のメンバーも利用している人がいない、認知度が低いのではないかな。もう少し周知する術がないのかと感じた。
- ④ 他の障害の方への接し方について勉強になる、一生懸命勉強しようと思う。

<部会参加者からの意見>

- シニアカーの代わりに電動車イスのほうがわかりやすいと思う。
- くしゃみや喫煙の絵にするか迷っているという話があったが、障害があるために、マスクを着用できない人もいるので検討してもらえたらよい。
- 知的障害についてイラストについての解説がないと判りにくいのではないかな。どんな状況でしょうか等の文言があるとよい。→学校の授業などでどこが悪いのか考えてもらう教材として活用してもらっている。
- ページ番号が読みにくい。
- 地域支援フォーラムの正式名称は「共生のための文京地域支援フォーラム」
- 移動支援について 片側に困りごと、片側に適切な支援方法が提示されているとよい。
- ヘルプマークをカバン等に付けているイラストがあると、活用方法が伝わりやすい。

(3) 発表会(自立支援協議会運営会議(親会))について

事務局より説明:

- 3/18(月)14:00～開催予定。
- ① 今年度の活動報告について、部会長が発表を行う。
- ② 当事者委員にも親会に参加していただき、その中で登壇していただく。個別に協力依頼がある。
 長めの自己紹介という形で、これまでどのように生きてこられたのか、話してもらいたい。親会(全体会)で皆さんから学ぶことを大事にしたい。
 自立支援協議会(親会)では、今年のテーマ「途切れない支援」について検討をすすめてきた。安心して地域のなかで生活するための支援、高齢期など、ライフステージのなかで、その都度必要な支援が機能しているのか、支援の繋がりについて皆さんのお話から学びたい。
- ③ 第3回障害当事者部会(2/20開催予定)の内容について

・自立支援協議会全体会の準備(内容の確認)

・令和6年度の障害当事者部会について検討

(協議会副会長より、来年度の運営について提案)

今年元旦に大きな災害が起きた。いつ市内でも同じような災害が起きないとも限らない。今回、福祉避難所が用意されていたにもかかわらず避難所が開けず、障害のある方が苦労されていることが露呈されていた。もし市内でそういう時に、何が私たちにできるかを来年度少しでも考えていきたい。テレビのニュース等でお気づきのこと、感じたことを心に留めておいていただきたい。